

「デジタル保育」高評価

タブレットで絵本やクイズ



タブレット端末を使い、給食の食材を学ぶ園児
—鹿屋市吾平町上名のつるみね保育園

鹿屋市のつるみね保育園が「第30回学習デジタル教材コンクール」で、文部科学大臣賞を受賞した。幼稚園・保育園での受賞は全国初。園児がタブレット端末で動画や音声を使い、楽しみながら学ぶ「デジタル保育」が評価された。

タブレット端末と学習教材コンで文科大臣賞

鹿屋・つるみね保育園

タブレット端末と操作

ロジエクターを使い、操作

週1回ほど行う。操作

中の端末画面を壁に映すため

園児全員で教材を共有できる。家族

写真を発表し質問を受けるフレンチーチェンティショ

ンや、野菜の絵を長い順に並び替えるなど内

容は多彩。保育士も、

給食の食材を映像で紹

介している。

6月にあったコンク

研究センターの主催、操作

音声や動画を使った、

分かりやすい学校教材

例を募集した。全国の

小中高年から64件応

募があった。

同園は昨年度、教育

活動にICT(情報通

信技術)を使って「夢コ

ンテスト」(コンピュ

ータ教育推進センター

主催)でも、審査委員

長特別賞を受賞した。

プレゼンや発表会の背

景演出に使うといった

実践例が評価された。

同園は0から5歳児ま

での計64人が通り、相

「大きく育つてね」

ヒラメなど
稚魚を放流

阿久根・山下小

第27回豊かな海づくり放流祭が14日、阿久根市の阿久根漁港で、地元の山下小の児童36人がマダイとヒラメの稚魚計約2千匹を放流した(写真)。



水産資源保護と、漁

場の保全の意識を高め

よつと1988年から

毎年、県内の各漁協

が持ち回りで開いてい

る。今年は同市の北さ

つま漁協(野村義也

代表理事組合長)が担当した。児童らは約10

名の稚魚を岸壁から次

々に放流。「大きく育

て」のかけ声で見送つた。

5年の宮野隼君(9)

は魚を身近に感じた

大きくなった姿も見た

い。野村組合長らは

「水産業に興味をもち、

海を大切にする気持ち

を養うきっかけにして

ほしい」と話した。

(桐原史朗)

ウナギ捕りなどの川遊び

上合崎とつぶの稚なな室約の児

植郡佐渡惟一目17